

先輩から⑨「保護者と良い関係を作ろう」

児童生徒の成長には、保護者との連携が大切です。教師は「教育の専門家」として児童生徒の実態を把握し、自分の思い描く児童生徒像に向かって指導計画を作成し、指導の工夫をしていきます。しかし、保護者は自分の子供について最もよく知る「子供の専門家」であり、保護者の思い描く子供像があります。保護者の願いと教師の願いが一致しないことも珍しくありません。どちらが正しいかではなく、教師と保護者が互いの専門性を生かして協力し合う関係を作っていきましょう。

教師はとかく「保護者を導こう」という気持ちになりやすいものですが、子供が生まれてからずっと親として子供を育ててきた保護者に対して「尊敬（敬意）」の気持ちを忘れずに接していくことが大切です。また、授業参観や面談、学校行事などに保護者が時間の都合をつけて学校に来てくれたことに対して「感謝」の気持ちを忘れないことも大切です。

私が保護者と良い関係を作るために、気を付けてきたことは次の三つです。

1 保護者の思いに「共感」しましょう。

保護者の話をじっくり聞き、気持ちを受け入れて共感する態度が大切です。現在の家庭での様子を聞き取ることは大切ですが、児童生徒が小さかった頃からの話を聞いていくと、保護者がどんな気持ちで育ててきたのか、どんな子供になってほしいと願ってきたのか、何ができるようになってほしいのかなどが見えてきます。話をじっくり聞くうちに、保護者の願いが明確になってきます。

2 保護者は、児童生徒を一緒に育てていくための「協働」のパートナー

お互いの考えを知るには、じっくり話し合っって共通理解を図りましょう。目指す児童生徒像をお互いに確認し、学校での支援と家庭での支援を明確にしましょう。ただし、学校としてできない過度の負担となるような支援は、曖昧にせずきちんと説明することが大切です。そして、その代わりとなる支援を積極的に提案していきましょう。

3 児童生徒の成長を「共有」しましょう。

児童生徒が少しでもできるようになったことを積極的に認め、喜びを共有しましょう。どんな場面で何ができたのか具体的に連絡帳に記載したり写真を利用したりするなどしてこまめに伝えると、保護者はうれしいだけでなく、教師が自分の子供をしっかり見ていると感じて信頼をよせてくれます。家庭でできるようになったことも、伝えてもらうことも大切です。その時には、保護者の頑張りを認めるような言葉掛けや連絡帳の記載をしましょう。

学校と家庭のそれぞれの支援について、情報交換をすることも大切です。懇談会や面談などで成果や課題について話し合ひましょう。課題についてはお互いに解決策を探りましょう。保護者からの相談事は、素早く対応して解決策を提示していくことも大切なことです。